

西之島の火山活動解説資料（平成 28 年 4 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

2013 年 11 月以降、西之島では噴石等を放出する噴火や溶岩の流出が続いていましたが、2015 年 11 月下旬以降はいずれも確認されていません。12 月以降は地表面温度の低下が確認されています。今期間に海上保安庁が実施した上空からの観測でも、観測中に噴火は認められませんでした。

表面的な活動に低下が認められるものの、これまで 2 年以上活発な火山活動が続いてきたことから、火口から概ね 1.5km 以内では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石¹⁾に警戒してください。また、火口から半径 0.9 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶおそれがありますので、噴火に警戒してください。

平成 28 年 2 月 17 日に火口周辺警報（入山危険）を切替え、警戒が必要な範囲を火口から概ね 1.5km の範囲としました²⁾。

○ 活動概況

< 14 日の状況 >（図 3 ～ 7）

14 日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、観測中（13 時 40 分～14 時 50 分）に火口及び火口周辺から噴気が認められましたが、火山灰の放出や溶岩の流出等の噴火現象は認められませんでした。噴気は、第 7 火口のほか火砕丘南側及び東側斜面にも認められ、噴気の付近には硫黄の析出と考えられる黄色領域が確認されました（図 3 ～ 5）。

熱赤外線画像からは、第 7 火口の火口縁及び火砕丘周辺の溶岩原には地表温度の高い領域が点在していましたが、前回（3 月 29 日）の観測と比較して顕著な変化などの特異事象は認められませんでした。また、新たな溶岩流等の地形変化は確認できませんでした（図 6）。

西之島周辺の海岸線には薄い青白色の変色水域が、幅約 200～300m で分布していました（図 7）。

- 1) 噴石について、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。
- 2) 平成 28 年 2 月 17 日に火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報の切替にあわせて臨時の「火山の状況に関する解説情報」を発表しています。警戒範囲の詳細等は、そちらをご覧ください。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.htm>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 28 年 5 月分）は平成 28 年 6 月 8 日に発表する予定です。

この資料は、海上保安庁のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『電子地形図（タイル）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

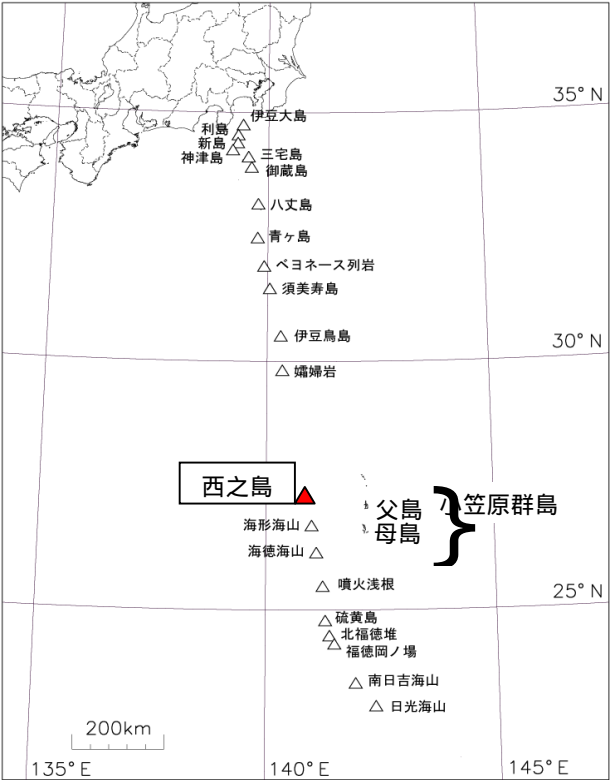


図 1 伊豆・小笠原諸島の活火山分布及び西之島の位置図
西之島は、東京の南方約 1,000km、父島から西に約 130km に位置します。

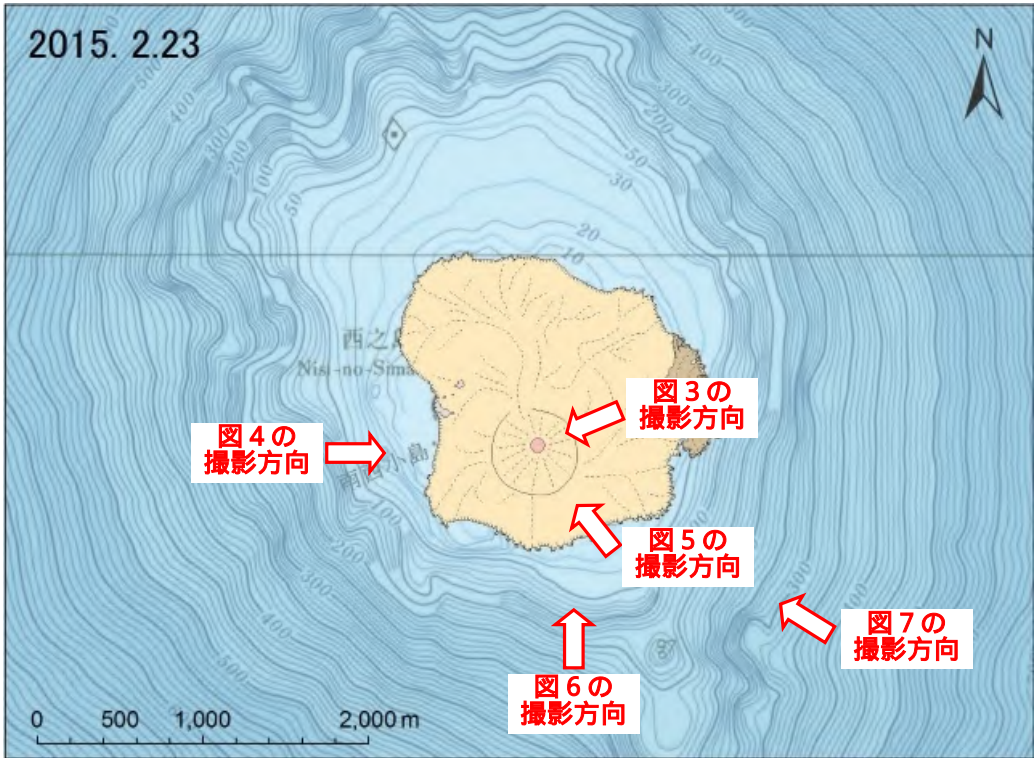


図 2 西之島 撮影方向
西之島地形図（海上保安庁作成）に撮影方向を追記。

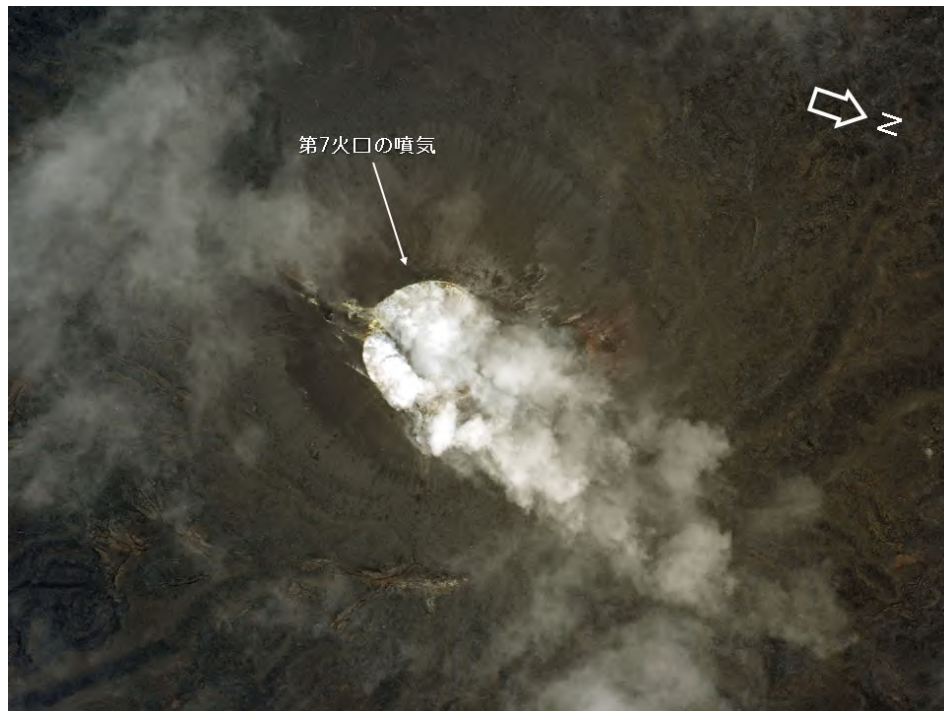


図3 西之島 第7火口の状況（4月14日 北東方向から撮影・海上保安庁提供）
・観測中噴煙は認められましたが、噴火は認められませんでした。



図4 西之島 第7火口付近の状況（4月14日 西方向から撮影・海上保安庁提供）
・観測中噴煙は認められましたが、噴火は認められませんでした。



図5 西之島 第7火口の噴気の状態（4月14日 南東方向から撮影・海上保安庁提供）
・噴気は、火砕丘南側及び東側斜面にも認められ、噴気の付近には硫黄の析出と考えられる黄色領域が確認されました。

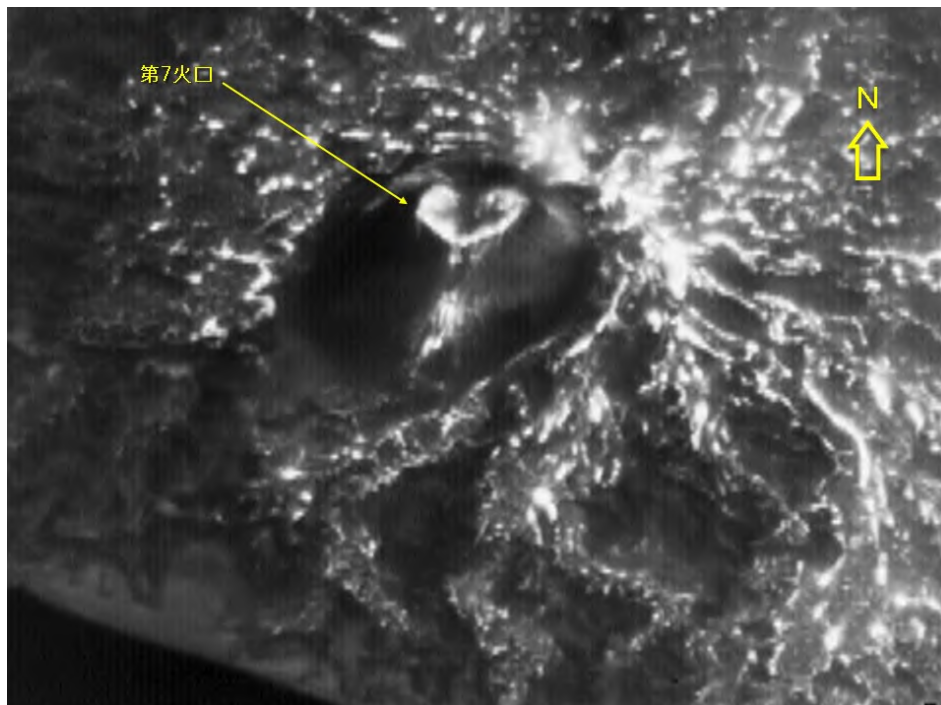


図6 西之島 熱赤外線画像（4月14日 南方向から撮影・海上保安庁提供）
・第7火口の火口縁及び火砕丘周辺の溶岩原には地表温度の高い領域が点在していましたが、前回（3月29日）の観測と比較して顕著な変化などの特異事象は認められませんでした。また、新たな溶岩流等の地形変化は確認できませんでした。

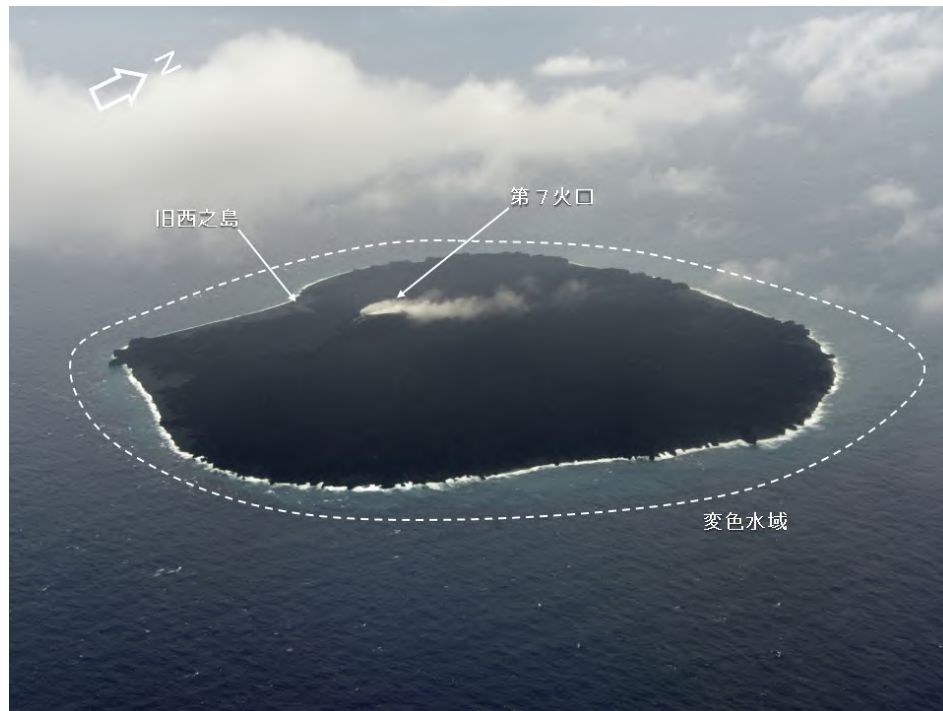


図7 西之島 変色水域の状況（4月14日 南東方向から撮影・海上保安庁提供）
・西之島周辺の海岸線には薄い青白色の変色水域が、幅約200～300mで分布していました。